

爪甲切削除去と抗真菌剤内服・外用による 爪白癬の積極的治療

寺邑朋子、三浦園子^{*}、高橋俊博^{*}、伊藤利子^{*}、高橋きよえ^{*}
医療法人あけぼの会 花園病院 内科、同 透析室^{*}

Treatment for nail fungus infection with antimycotic agents after removal of the affected portions of the nail plate

Tomoko Teramura, Sonoko Miura, Toshihiro Takahashi, Toshiko Ito, Kiyoe Takahashi,
Hanazono Hospital

<はじめに>

近年、透析患者に対するフットケアへの関心が高まっている。しかし、最もありふれた足病変である白癬については、これまでどちらかというと軽視されていた印象がある。特に爪白癬は自覚症状が少ないため放置されがちである。そこで、今回、爪白癬に対して抗真菌剤の内服および外用と爪甲切削除去を組み合わせた治療を試みたので報告する。

<方 法>

当院透析患者全員について爪の状態を観察し、肥厚、白濁、変形などがあれば爪の一部を採取して苛性カリ法による直接鏡検を行い、白癬菌を確認した患者に治療を開始した。治療は①爪甲切削除去、②塩酸テルビナフィン内服、③塩酸テルビナフィン外用、を症例に応じて組み合わせて行った。

①爪甲切削除去

爪甲切削除去にはペン型の小型グラインダー（Mr. Meister：小型ペンタイプツール P T- α ）を使用した（図1）。爪の切削に使う先端工具は球状で目の粗いものが摩擦熱による痛みが少なく、当たる角度が変わっても同じように削ることができる。

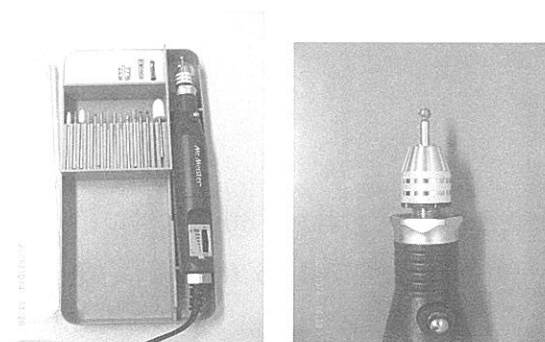


図1. 小型グラインダー

文献を参考に、ダンボールを利用した治療補助装置を作成した（図2, 図3）¹⁾。高さとお行きが35cm、幅50cmのダンボールの底面部分を切り取ってアクリル板を貼り、前後に患者の足を入れる穴と術者の手を入れる穴を開ける。治療時には、黒いゴミ袋を、口がアクリル板側になるようにダンボール内側上部に貼り付け、ダンボールに開けた穴に合わせて切り込みを入れる。この装置を用いることにより、削った爪が周囲に飛び散らず、治療後はゴミ袋ごと捨てることができ、衛生的である。



図2. 治療補助装置

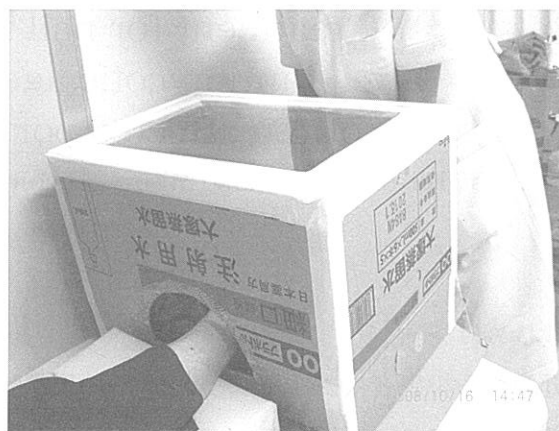


図3. 爪甲切削を行っているところ

②塩酸テルビナフィン内服

塩酸テルビナフィンは肝で代謝され、約80%が尿中に排泄される。未変化体の尿中排泄率が低いため、透析患者でも減量の必要がないと記載されているものもあるが、ラミシール錠FAQでは、透析患者での用法・用量が確立されておらず、腎機能障害で血中濃度が上昇するという報告もあることから安全性を考えると使用は勧められないとある。このため、通常1日1回125mgを内服するが、まず週3日の間歇投与から開始し、副作用のないことを確認後、1ヶ月目から連日内服に変更した。

③塩酸テルビナフィン外用

爪白癬患者はほとんど足白癬を合併しており、足底の角化が強いことも多いため、塩酸テルビナフィン外用は基本的に尿素軟膏を併用して爪と足全体に塗布し、可能であればサランラップやビニール袋を用いて密封療法も併用した。

<結果>

①爪白癬の頻度

爪白癬は76人中29人(38.2%)に認められた。50歳未満の患者では爪白癬は認められなかった。男性では40人中16人(40%)、女性では36人中13人(36.1%)に認められた。糖尿病患者では23人中9人(39.1%)、非糖尿病患者では53人中20人(37.7%)に認められた。

②症例

症例 1(図 4):69 歳女性。3 年前に厚い爪甲が彎曲して鷺爪様となった爪甲鉤湾症の状態であった。自分で全く爪切りをしないため、その後スタッフが爪切りを行っていた。

この患者は内服コンプライアンスが悪いため、爪甲切削除去と外用療法を行った。週 2～3 回、1 回に 15～20 分程度少しずつ切削を行い、その後に外用剤を爪と足に塗布した。治療 3 ヶ月で、混濁・肥厚部分がほとんどなくなったため、その後は外用療法のみ行っている。



図 4. 症例 1 69 歳女性 爪甲切削+抗真菌剤外用で治療

症例 2 (図 5) : 71 歳女性。この患者は切削・内服・外用の 3 つの治療を行った。症例 1 と同様に切削を行い、爪の肥厚・混濁がほとんど見られなくなった後、内服療法と外用療法を継続している。治療 3 ヶ月めで、綺麗な爪が根元から少しずつ生えてきている。

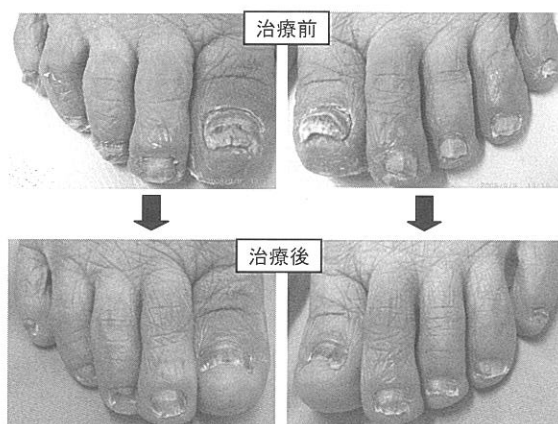


図 5. 症例 2 71 歳女性 爪甲切削除去+抗真菌剤内服・外用で治療

<考 察>

爪白癬は自覚症状に乏しいため放置されがちであるが、進行すると爪の変形による痛みや歩行困難が現われることもあり、適切な治療が必要である。

爪甲切削除去の効果としては、¹⁾ 爪に大量に存在する白癬菌を少なくする、²⁾ 爪を薄くして薬剤

を浸透しやすくする、³⁾ 爪の変形を改善する、等が挙げられる。

このため、抗真菌剤内服療法の補助療法として、また副作用等で内服薬が使えない場合に外用療法との併用で治療効果を高めることができる。

爪甲切削除去は効果がある場で見えて確認でき、同時に行う外用療法で足全体が綺麗になるため、患者には好評であった。病変が進行している患者ほど他人に足を見せたがらないだけでなく、自分自身も足を見ない傾向にある。しかし、治療により爪および足が綺麗になってくると、足を見るようになり、自宅での外用剤塗布も積極的に行うようになった。

<まとめ>

爪甲切削除去は抗真菌剤内服療法や外用療法に組み合わせて行うことにより、爪白癬の治療効果を高めるだけでなく、患者の爪や足に対する意識を変えるきっかけとすることもでき、有効な方法であると思われる。

参 考 文 献

- 1) 藤田 繁：爪白癬の爪甲切削除去・抗真菌剤外用療法一切削の工夫とコツー、臨床皮膚科、55(5)：172-174、2001